

「セーフ・フロム・ハーム」登録前研修  
2021テキスト版（継続登録者用）

---



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

# イントロダクション（導入）

---

## 1. 登録前研修の目標

この「セーフ・フロム・ハーム」登録前研修は、「思いやりの心を育む教育」を指導者が理解し、指導者の「質」・スカウト運動の「質」の向上を図るものです。

## 2. 登録前研修の概要

「セーフ・フロム・ハーム」登録前研修を通じて、危害を予防するため、また、思いやりの心を育むための知識・方法を身につけることができます。

登録にあたっては、eラーニングまたはテキストでの研修に取り組みなければなりません。

## 3. 登録前研修について

登録前研修を修了し、セーフ・フロム・ハームについて理解し同意したら、「確認と同意」にサインをしていただきます。サインをした同意書は所属団の団委員長へ提出してください。

## 4. 研修の構成と内容

この研修は「1.はじめに」「2.思いやりの心を考える」「3.SNSとトラブルについて」「4.日本連盟のセーフ・フロム・ハームへの取り組み」「5.ガイドラインの確認」「6.まとめ」の6つのステップから構成されています。

各ステップを通じて、セーフ・フロム・ハームに関する知識、指導者として留意すべきこと、また近年問題となっているトピックスや思いやりの心について学習ならびに考える時間としていただければと思います。

次ページよりステップー1【はじめに】を始めます。

## ステップー 1 【はじめに】

---

私たちが取り組む「セーフ・フロム・ハーム」は、ハームに適切に対応することに注目が集まりますが、実はハームを取り除いて安全で安心なスカウト活動を実現するものであります。

そのためにはハームが起これる状況などの最新の情報を入手する、また自分自身の思いやりの心について、自分自身で考え行動する必要があります。

2021 年度 e ラーニングでは、思いやりの心について考えるステップや、SNS でのトラブル、また最新の日本連盟の取り組みについて学ぶステップがあります。

ぜひ積極的な姿勢で e ラーニングに取り組んでいただければと思います。

ステップー 1 は終了です。次ページのステップー 2 に進んでください。

## ステップ 2 【思いやりの心を考える】

### ●思いやりの背中見せていますか？

はじめに

セーフ・フロム・ハーム安全委員会では、思いやりの心を育むためのスカウト向け教材を作成し、スカウトへのセーフ・フロム・ハームを推進してきました。指導者の皆様も、これらの教材を活用しながら、スカウトと共に「思いやり」について考える機会があったのではないのでしょうか？

少し視点を変えてみましょう。

指導者の皆様自身は、周囲の人に対して、思いやりの心で接することが出来ているのでしょうか？人を思いやるには、「相手がどのような気持ちか」を考える力、共感できる力が必要です。相手の気持ちを想像しながら、スカウト・保護者・他の指導者・地域社会・そして自分、それぞれに対する思いやりを考えてみましょう。

### ◇質問－ 1 《スカウトへ向ける思いやり》の導入

スカウトの気持ちになって、回答してみましょう。

回答欄に選択した番号を記入してください。

(1) 指導者にも「ちかい」と「おきて」を実践して欲しい。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

(2) 楽しくて役に立つ、ダイナミックな活動をしたい。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

(3) どのスカウトにも平等に接して欲しい。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

## 《スカウトへ向ける思いやりの視点》

- スカウトにとって親・親族以外の大人で、長期に渡って成長を見守ることの出来るボーイスカウト指導者は、スカウトの成長に大きな影響力を持ちます。自らが「ちかい」と「おきて」を実践することで、信頼できる大人の背中を見せているでしょうか？
- スカウトのニーズに応えられるよう、努めていますか？プログラムが適切でないと、活動の目標を果たすことができないだけでなく、スカウト達の満足度も下がります。スカウト達に適切な指示、必要な情報、高いスキルを提供できるよう、自らも学び続けましょう。
- 無意識のうちに、えこひいきや差別をしてしまっていないか、振り返ってみましょう。スカウトと相性が合わない場合もあるかもしれませんが、そこは大人です。感情的になるのは抑え、ひとりひとりの個性を見極めた指導を心がけましょう。また、気軽に相談・報告できる環境づくりをして、スカウトの気持ちを受け止めましょう。

### ◇質問－２ 《保護者へ向ける思いやり》の導入

保護者の気持ちになって、回答してみましょう。

回答欄に選択した番号を記入してください。

(1) スカウト活動は、我が子に良い影響を与えてくれる。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

(2) 我が子は、立派で信頼できる指導者に預けたい。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

(3) ボーイスカウトのことをもっとよく知りたい。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

## 《保護者へ向ける思いやりの視点》

- 保護者はたくさんの期待をして、大事な我が子をボーイスカウト運動に託します。  
ニーズに応える活動を提供出来ていますか？  
活動の様子を定期的に報告してコミュニケーションをとったり、相談に対応できる環境づくりをして、保護者との壁を無くしましょう。
- 入団前後の保護者は、指導者を立派な信頼できる人と期待して、我が子を託すのではないのでしょうか？  
真摯に向き合い、指導者としての研鑽を積み、保護者からの期待に応えるよう努めましょう。  
また保護者は指導者をよく見ているので、日頃から軽率な行動は慎むよう心がけましょう。
- スカウト運動の目的・原理・方法を保護者に分かりやすく説明し、家庭での取り組みの大切さ、スカウト活動を継続することの必要性を伝えられるようにしましょう。  
ボーイスカウト活動の素晴らしさを保護者に理解して頂ければ、きっとスカウトの背中を押してくれることでしょう。

### ◇質問－3 《他の指導者へ向ける思いやり》の導入

あなたは どう 思いますか？ 回答して みましょう。

回答欄に 選択した 番号を 記入して ください。

(1) スカウト経験のある指導者と経験のない指導者、特に違いはない。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

(2) 発言しないのは意見がないからだ。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

(3) 指導者同士も仲良く楽しく活動したい。

1 そう思う      2 どちらともいえない      3 そう思わない

回答： \_\_\_\_\_

## 《他の指導者へ向ける思いやりの視点》

- スカウト経験のない保護者・指導者にとって、スカウティングが身につけている経験者は、憧れです。  
スカウト運動の素晴らしさを実感しますし、これこそがスカウティングの成果と言えるでしょう。  
その差に加え、年齢も性別も環境も違う大人達です。  
自分に出来るから相手にもできるだろう、ということはありません。  
コミュニケーションを図って、お互いの得手不得手を理解し合いながら、共に活動しましょう。
- 意見を言いやすい環境作りをしていますか？  
『どうせ自分が意見を出しても、聞いてもらえない・・・』そう思っている人もいるかもしれません。  
良いプログラムを作るには、たくさんのアイデアが必要です。  
どの意見にも耳を傾け、議論することで、発言者に学びと自己肯定感を与え、良い指導者へと成長させていくことでしょう。
- 指導者間の雰囲気はそのまま団のカラーとなり、スカウト、保護者にも伝わります。  
隊内だけでなく、団全体で支援し合う気持ちがあれば、スカウトにとっても、指導者にとっても居心地のいい団になります。  
指導者ひとりひとり全員が、思いやりの心で接することが出来れば、皆が笑顔になりますね。

### ◇質問－4 《地域社会へ向ける思いやり》の導入

地域の方々から、こんな風に言われたことがありますか？

回答欄に選択した番号を記入してください。

(1) ボーイスカウトって、良いことをする団体ですよね？

1 ある      2 ない

回答： \_\_\_\_\_

(2) ボーイスカウトって聞いたことはあるけど、何をしているの？

1 ある      2 ない

回答： \_\_\_\_\_

## 《地域社会へ向ける思いやりの視点》

- 地域の方々は、ボーイスカウトを「奉仕活動や良いことをする、立派な団体」見てくれていることも多いのではないのでしょうか？  
日ごろからその期待に応えるような振る舞い・活動をしていますか？  
制服を着用していると「あ、ボーイスカウトの人だ。」と思われているかもしれません。  
地域の方々を落胆させるような、信頼を損ねる行動は慎みましょう。
- ボーイスカウトは、地域の大切な子供達をお預かりして、良き社会人に成長する手助けをしています。  
セーフ・フロム・ハームを実践し、より信頼を得て、自信をもってPRしていきましょう。  
加盟員が増えることは、それ自体が社会貢献となり得ます。

### ◇質問－5 《自分自身へ向ける思いやり》の導入

自分自身を見つめてみて下さい。

回答欄に選択した番号を記入してください。

(1) 他の人に仕事を頼めず、自分で抱えてしまうことがある。

1 ある      2 ない

回答： \_\_\_\_\_

(2) 家族から「よその子ばかり面倒見ている。」と言われたことがある。

1 ある      2 ない

回答： \_\_\_\_\_



## 《自分自身へ向ける思いやりの視点》

- 頼まれると断れない。人に頼むのも苦手。  
結局たくさん仕事をひとりで抱えてしまう方いらっしゃいませんか？  
隊・団の運営は、多くの人に支えられるものです。  
余裕のない状態で無理に行なうのではなく、周囲に協力を求めましょう。  
ご自分の心身の安定が、活動を続けていく上でも、スカウトと関わる上でも、最も大切であることを心に留めておきましょう。
  
- 「よその子の面倒ばかり見ている。」「大変ならやめれば？」  
家族からそう言われたことはありませんか？  
家族のために仕事をしっかりやらなくてはならないのに、活動の準備に時間を取られて睡眠時間を削ったりしていませんか？  
責任感の強い指導者ほど葛藤していることでしょう。  
団もスカウトも大切です。  
でもあなたが一番に守らなければならないのは、あなたの家族です。

## 《まとめ》

- セーフ・フロム・ハーム安全委員会では、スカウトに思いやりの心を育んでもらいたいと思うと同時に、指導者の皆さんにも思いやりの心で活動に関わって頂きたいと考えました。
  
- スカウト運動の目的は、子供たちを「良き社会人」に育てることです。  
その中に「他の人への気づかい」ができ「思いやりの気持ち」を育む人づくりを目指すのであれば、スカウト達には言葉で語りかけることも必要ですが、背中を見せる、態度で示すことのほうが、より受け入れてもらえるのではないのでしょうか？
  
- 「指導者の思いやり」は、ここでお示ししたことが全てではありません。  
ひとりひとり振り返って考えてみて下さい。

ステップー2は終了です。次ページのステップー3に進んでください。

## ステップ3 【SNSとトラブルについて】

コロナ禍も相まって、インターネットを介したコミュニケーションが増えていることを皆さんも実感しているところではないでしょうか。

WEB会議システムやチャット、ソーシャルネットワーキングサービス（以下、SNS）など多岐にわたり、それらは私たちの生活に欠かせないものとなりつつあります。

スカウティングにおいてもインターネットの活用がなされています。例えばジャンボリー・オン・ジ・インターネット などです。世界スカウト機構が主催して行われる公式国際行事です。通称 JOTI と呼ばれ、無線の代わりにインターネットを利用して、ジャンボリー・オン・ジ・エア（JOTA）と同じく情報交換をして友好を深めようとするものです。

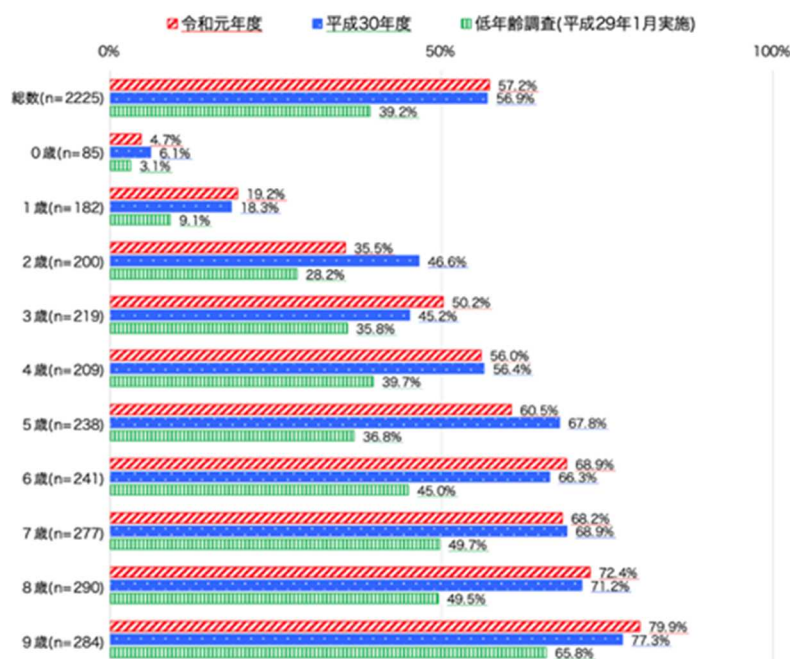


SNS などの利用は大人のみならず、学校の授業やスカウト活動などに利用されるなどスカウトたちの年代においても広がりを見せています。気軽にコミュニケーションをとることができ、瞬時に情報を発信・収集できるようになった反面、様々なトラブルが発生しています。

ここではインターネットや SNS の利用の現状、そしてそれらのトラブル事例を確認し、安全で有効に活用する方法について考えてみたいと思います。

### インターネットの広がり と SNS の利用現状

令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査（内閣府）によれば、令和元年度における0歳から9歳のインターネット利用率は57.2%で、年齢が高いほど利用率が高くなる傾向があります。



出典：令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査

[https://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet\\_torikumi/tyousa/r01/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf](https://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet_torikumi/tyousa/r01/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf)

このデータから分かる通り、ビーバースカウトやカブスカウトの年代においてもインターネットの利用は一般的に行われており、それがもはや当たり前であるということを認識する必要があります。  
インターネットへのアクセス手段として、6～29歳ではスマートフォンなどの携帯端末によるものが多くなっています。

こういった背景から SNS が爆発的に普及しています。SNS とは、登録された利用者同士が交流できる Web サイト上の会員制のサービスのことです。代表的なものとして以下が挙げられます。

LINE：メッセージ系  
Twitter：メッセージ系  
Facebook：メッセージ系  
Instagram：写真系  
Tik Tok：動画系  
YouTube：動画系

これらのサービスは実名・匿名など様々な利用形態がありますが、各サービスが広がりを見せる中でトラブルの発生も報告されています。また大人が普段利用していない SNS でもトラブルが報告されています。例えば「ひま部」など中高生から大学生を対象とした学生限定コミュニティサイトなどです

また近年はオンラインゲーム上で文章や音声のやりとりができるようになっており、こちらも多くトラブルの発生が報告されています。近年ではゲーム上で話しかけられたことから実際に会うことになり、連れ去られるといった事件も発生しています。

## SNS によるトラブル

SNS の普及による代表的なトラブルとしては、以下のようなことがあります。

- ・自分の発言が自分の意図とは異なる意味で他人に受け取られてしまった（誤解）
- ・ネット上で他人と言い合いになった（けんか）
- ・自分は軽い冗談のつもりで書き込んだが、他人を傷つけてしまった
- ・ネット上でコミュニケーションを取るうちに、実際に会うことになりトラブル（略取・誘拐、児童ポルノ・児童売春などの性的被害など）に見舞われた

このように、自身によるコミュニケーションのすれ違いによりトラブルが生じています。このようなことは、スカウトたちだけでなく、大人である指導者・保護者・関係者においても起こりうる可能性があります。  
セーフ・フロム・ハームでは、こういったことも起こらないよう私たち自身も取り組む必要があります。

またスカウトたちも SNS によるトラブルに見舞われる可能性があることも知っておく必要があります。次の図は、SNS に起因した事犯の被害児童数の推移です。スマートフォンや SNS が普及することにより、SNS によるトラブルが増加しています。子供同士のトラブルだけではなく、児童売春などの犯罪行為にも使われていることを知っておかなければなりません。

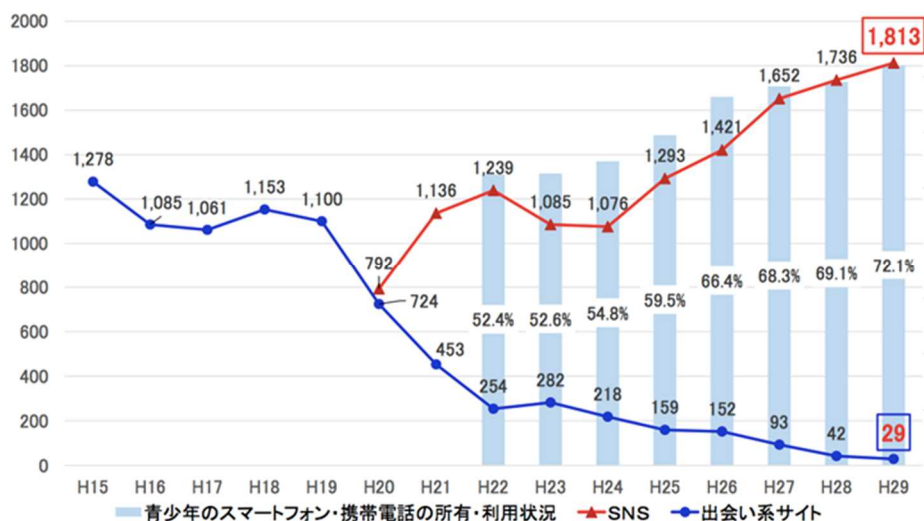


図 SNS 等に起因する事犯の被害児童数の推移

出典：平成 29 年末における SNS 等に起因する被害児童の現状と対策について（警察庁）

インターネットや SNS は今や私たちの生活になくてはならないツールとなっています。私たちの活動においてもそのツールを有効に使うことでこれまで実現し得なかったことを形にすることができます。しかし同時に、リスクがあり、またスカウトたちにもその危険性があるということを適切に理解しておく必要があります。

スカウトたちを守るためには私たちのインターネットリテラシーを高める必要があります。むしろスカウトたちよりも先に学び、身に迫る危険から遠ざけてあげることがセーフ・フロム・ハームの観点からも重要です。

(1) 保護者との対話

隊や団としての SNS 利用方針などをあらかじめ保護者と合意しておく必要があります。またスカウトたちの SNS の利用について、危険性などを保護者と認識を共有し、家庭での適切な指導をお願いする必要があります。

(2) スカウト活動でのルールの確認

ガイドラインでも示している通り、スカウト活動における SNS は一対一で使用しません。指導者からスカウト、スカウト同士であっても複数人が確認できる状況（グループなどと言います）を構築しておく必要があります。

インターネットや SNS の特性を十分に理解し、安全安心な利用をすることでその有効性を十分に発揮することができます。ぜひ最新の情報を入手し、スカウトたちから危険を遠ざけるようにしましょう。

## 問題

回答欄に選択した番号を記入してください。

(1) インターネット大人だけが使うもので、子供たちに対して特別な配慮は必要ない

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

(2) インターネット上はでは自由に意見を述べるので、暴言や悪口を匿名で書いても構わない

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

(3) インターネットは危険なツールなので、スカウト活動の発信や情報収集につかっ  
てはいけない

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

## 【解説】

(1) インターネットは大人だけが使うもので、子供たちに対して特別な配慮は必要ない。(答え：いいえ)

現代においては、子供たちも広くインターネットを利用しています。インターネットを利用する際のルールを定めるなどの準備が必要です。

(2) インターネット上では自由に意見を述べるので、暴言や悪口を匿名で書いても構わない。(答え：いいえ)

匿名であっても暴言や悪口を書き込んではいけません。犯罪として様々なトラブルに巻き込まれる可能性があります。

(3) インターネットは危険なツールなので、スカウト活動の発信や情報収集につかっ  
てはいけない。(答え：いいえ)

インターネットは使い方を間違わなければ、即座に多くの情報を発信するのみならず、有益な情報を収集することができます。有効に活用することが望まれます。

ステップー3は終了です。次ページのステップー4に進んでください。

## ステップ4 【日本連盟のセーフ・フロム・ハームへの取り組み】

日本連盟ではセーフ・フロム・ハームのより一層の推進、相談窓口の運営を行っています。

このステップでは新たな取り組みや皆様を知っていただきたい情報をお知らせします。

### BS・VS向け教材の紹介

ボーイスカウトおよびベンチャースカウトを対象とした教材【漫画「セーフ・フロム・ハームってどんな意味?」、「多面体サイコロで遊ぼう」】を作成しました

漫画「セーフ・フロム・ハームってどんな意味?」では、ボーイスカウトやベンチャースカウトにもセーフ・フロム・ハームの基本的な理解をしてもらえるような内容になっています。  
ぜひ指導者の皆様もご一読ください。



多面体サイコロはコミュニケーションを取りながら遊びを進めて行くうちに、相手の気持ちを感じ取る練習になり、思いやりの心を育むことに繋がっていくことをねらいにしています。



ぜひ活動の中でご活用いただくとともに、アンケートも実施しておりますのでご意見をお寄せください。

### BVS・CS向け教材の紹介

ビーバースカウトおよびカブスカウトを対象とした教材「思いやりの心ってなあに」を作成しています。

この教材は一話完結型の12枚のカードで、その一つひとつの話に「ねらい」があり、スカウトたちに問いかけながら「ビーバー隊のきまり」や「カブ隊のさだめ」を再確認し、思いやりの大切さを学んでいただくようになっています。



スカウトはストーリーを聞いて仲間と話し合い、お互いの意見を聞き、スカウト自身が考えるプロセスが大切です。絵を見せながら読み聞かせ、スカウトから感想や意見を聞きます。スカウトの意見を否定しないよう、なぜそう感じたのか、質問をするなどしてスカウトの感じたことを引き出すことが大切です。



ぜひ活動の中でご活用いただくとともに、アンケートも実施しておりますのでご意見をお寄せください。

## 「セーフ・フロム・ハーム」セミナー（基本編・実践編）

日本連盟では指導者の皆様にセーフ・フロム・ハームについてより理解を深めていただくために、所属県連盟・各地区主催でセーフ・フロム・ハームセミナー（基本編・実践編）を開催しています。ケーススタディを用いた対処法の検討やグループディスカッションを通じて、よりセーフ・フロム・ハームに対して理解を深めていただけます。開催の案内がありましたら、ぜひ受講してみてください。

## 「セーフ・フロム・ハーム」推進フォーラム

日本連盟では各県連盟や各地区においてセーフ・フロム・ハームを推進する立場の方を対象に、「セーフ・フロム・ハーム」推進フォーラムを開催しています。このフォーラムに参加された方が「思いやりの心を育む教育」を深く理解し、各県連盟や各地区においてセーフ・フロム・ハームへの適切な対応ができるようになることを目的としています。

## 「セーフ・フロム・ハーム」対応規程を制定

日本連盟では、「セーフ・フロム・ハーム」対応規程を制定し、2020年（令和2年）1月14日より適用されることとなりました。  
「飲酒、喫煙の扱い」など事案が発生した場合の対処・対応方法を明確に制定しました。

## 相談窓口を運営しています

日本連盟では、団内で対応が難しい内容などの相談を受け付け、解決に向けて必要な支援を行う「セーフ・フロム・ハーム」に関する相談窓口を設置しています。当事者となり、ほかの人に相談しづらい内容などがある場合の相談も受け付けます。電話やメールで相談を受け付けていますので、最新の情報を日本連盟ホームページでご確認の上ご連絡ください。

日本連盟ではセーフ・フロム・ハームに関する最新の情報をホームページで発信しております。ぜひご覧ください。



## 問題

回答欄に選択した番号を記入してください。

(1) スカウト向けのセーフ・フロム・ハーム教材は存在しない

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

(2) 日本連盟では、県連盟や地区でセーフ・フロム・ハームを推進する立場の人を対象とした「セーフ・フロム・ハーム」推進フォーラムをはじめた

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

(3) 日本連盟の規程に「飲酒、喫煙の扱い」に関する事案の対処・対応方法を明記した

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

## 【解説】

(1) スカウト向けのセーフ・フロム・ハーム教材は存在しない。(答え：いいえ)

日本連盟ではBVS・CS向け教材として「思いやりの心ってなあに」、BS・VS向け教材として漫画「セーフ・フロム・ハームってどんな意味?」、「多面体サイコロで遊ぼう」を制作しています。

(2) 日本連盟では、県連盟や地区でセーフ・フロム・ハームを推進する立場の人を対象とした「セーフ・フロム・ハーム」推進フォーラムをはじめた。(答え：はい)

2020年度より「セーフ・フロム・ハーム」推進フォーラムを開始しました。  
今後も希望される県連盟での開催を行います。

(3) 日本連盟の規程に「飲酒、喫煙の扱い」に関する事案の対処・対応方法を明記した。(答え：はい)

日本連盟では「セーフ・フロム・ハーム」対応規程を制定し、2020年(令和2年)1月14日より適用されることとなりました。

「飲酒、喫煙の扱い」など事案が発生した場合の対処・対応方法を明確に制定しました。

ステップー4は終了です。次ページのステップー5に進んでください。



## ステップ5 【ガイドラインの確認】

---

この運動に関わるすべての指導者は、セーフ・フロム・ハームガイドラインを確認し同意をしなければ活動を続けることができません。

ここで改めてガイドラインの内容を確認しましょう。

### -すべての人の尊厳を尊重する。

個々の人間は、多様な存在として尊重されなければなりません。スカウト活動に関わる人だけではなく、すべての人の尊厳を尊重することが求められます。

### -すべての成人・青少年を平等に扱う。

人種、信条、性別、社会的身分、生まれ育ちなどによって差別してはなりません。ただし、それぞれが性別、能力、年齢、財産、職業などにおいて違いがあることを前提に、合理的な理由がある場合については違った取り扱い（必要に応じた支援など）を認めなければなりません。

### -相手の嫌がることは、自分が善意のつもりであっても行わない。

相手にとって嫌なことを知るのは大変難しいことです。自分では善意だと思っていたら、なおさらです。まず相手を観察し、尊厳を尊重することが大切です。そうすることによって お互いがお互いを大切に守ろうとすることにより相手を傷つけるような事態は避けられるはずです。

### -すべての人に対し、脅威を与えたり脅威を感じさせたりする言葉を遣わない。どのような悩みにも親身になって相談にのり、対応する。

普段何気なく使用している言葉も、相手にとっては脅威を与えたり感じさせたりする言葉 かもしれません。過度に慎重になる必要はありませんが、今一度自分の言葉遣いに注意しましょう。相談にのり対応するときには、個人の尊厳を傷つけないよう十分に注意することが 求められます。

### -ウェブサイトは誰でも見られることを意識して内容を選ぶ（個人情報、顔写真などを本人または保護者の許可なく投稿しない）。

近年はウェブサイトを使用した情報発信が盛んに行われています。インターネットは大変便利なツールですが、使い方を誤ると個人の尊厳を深く傷つける恐れがあります。使用には 細心の注意が必要です。

### -活動中にスカウトの前で喫煙はしない。

活動中の喫煙はスカウトの目に触れないところで。また煙のにおいや受動喫煙などにも十分に注意する必要があります。

### -スカウト活動中は飲酒をしない。

活動中の飲酒は絶対にしてはいけません。事件、事故などの緊急時に適切な判断や対応ができなくなります。活動中の飲酒は、行事の安全配慮に対する意識の低さ、あるいは気の緩みの現れととらえられ、活動に対する信用を失います。スカウトは「酔っぱらっている指導者なんか見たくない。」と思っています。キャンプなどの宿泊を伴う活動時は、スカウトの就寝時間後も活動中にあたります。

**-安全で安心できるスカウト活動のために指導者は複数で活動を行います  
(指導者バディルール)。**

スカウト活動、あるいは活動外においてもスカウトと指導者が一対一にならないようにします。集会の集合時においては、二人以上の指導者が事前に集合場所にいるようにし、スカウトと指導者が一対一にならないようにします。キャンプや舎営の折、スカウト就寝時の点検については、必ず、二人以上で行います。オンライン通信(SNS)、ソーシャルメディアなどについては、他の指導者または保護者も登録されている中で利用します。

これらの項目は、私たちの活動を萎縮させるものではありません。私たちの活動をさらにより良いものにし、社会から信頼される活動にするためのものです。

## 問題

回答欄に選択した番号を記入してください。

(1) 個人の価値観は様々なので、自分の価値観を相手に押し付けても良い

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

(2) インターネットでの情報発信は新しいスカウトの仲間を募るのに有効なので、活動の様子などを写っている人の同意（または保護者）を得ずに公開しても良い

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

(3) ガイドラインは努力義務であって、全ての指導者が同意する必要はない。

1 はい      2 いいえ

回答： \_\_\_\_\_

## 【解説】

- (1) 個人の価値観は様々なので、自分の価値観を相手に押し付けても良い

答え：いいえ

自身が持っている価値観は尊重されるべきですが、相手の尊厳を傷つけたり、不平等に扱ったり悪意のあるものは許されません。またそれが善意のつもりであっても、相手の嫌がることは決して許されません。

- (2) インターネットでの情報発信は新しいスカウトの仲間を募るのに有効なので、活動の様子などを写っている人の同意（または保護者）を得ずに公開しても良い

答え：いいえ

インターネットでの情報発信は大変有効なものですが、情報の公開には相手の同意を得ることが必要です。

- (3) ガイドラインは努力義務であって、全ての指導者が同意する必要はない。

答え：いいえ

この運動に関わるすべての指導者は、セーフ・フロム・ハームガイドラインを確認し同意をしなければ活動を続けることができません。

ステップー5は終了です。次ページのステップー6に進んでください。

## ステップ6【まとめ】

---

---

最後にセーフ・フロム・ハームの重要事項を再確認したいと思います。

### セーフ・フロム・ハームはスカウト運動の質の向上を目指します

- ・セーフ・フロム・ハームとは「さまざまな危害から常に安全な状態にいる」ことです。
- ・スカウトや指導者からの信頼が向上するとともに指導者自身の意識の向上が図れ、スカウト運動の地域社会からの信頼がさらに高まります。
- ・相談窓口の設置によりコンプライアンスの向上とともに、活動実態の可視化につながります。
- ・これらの推進することにより「スカウト運動の質の向上」を目指します。

### ガイドラインを遵守し、社会の変化に対応します

- ・すべての人の尊厳を尊重する。
- ・すべての成人・青少年を平等に扱う。
- ・相手の嫌がることは、自分が善意のつもりであっても行わない。
- ・すべての人に対し、脅威を与えたり脅威を感じさせたりする言葉を遣わない。
- ・どのような悩みにも親身になって相談にのり、対応する。
- ・ウェブサイトは誰でも見られることを意識して内容を選ぶ。
- ・活動中にスカウトの前で喫煙はしない。
- ・スカウト活動中は飲酒をしない。
- ・安全で安心できるスカウト活動のために指導者は複数で活動を行います。

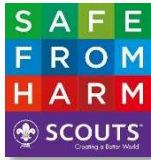
### セーフ・フロム・ハームへの対処に責任を持ちます

- ・問題発生時の対応は、場当たりの対応にならぬよう、常に準備をします。
- ・被害者、加害者共に公平な視点に立って傾聴の姿勢で話を聞きます。
- ・無理な要求には曖昧な返事をせず、きっぱりと断ります。
- ・団内などで対応が難しい場合は、日本連盟の相談窓口を利用します。

### 研修の最後に

「セーフ・フロム・ハーム」を推進することでハームのない活動環境を提供し、スカウトの年代に適した安全で安心できる活動になります。これが引いてはボーイスカウト運動の目的である「より良き社会人を育てる」運動のさらなる発展に繋がるのです。

ステップ6は以上です。確認と同意に進んでください。



## セーフ・フロム・ハームの確認と同意

私はスカウト運動の指導者として、スカウトと自分自身の保護のためにセーフ・フロム・ハームについて理解し、以下の項目の確認と同意をします。

記入方法：

- ① 各項目を読んで同意できたら□にレ点を入れてください。
- ② 本書への確認と同意をもって、登録前研修の修了といたします。 確認日、氏名を記入の上、所属する団、地区、または（県）連盟に提出してください。

確認と同意事項：

1. すべての人の尊厳を尊重します。
2. いかなるときもスカウトに、体罰を与えることはしません。
3. すべての成人・青少年を平等に扱います。
4. 相手の嫌がることは、自分では善意と思っても行いません。
5. すべての人に脅威を与えたり、感じさせたりする言葉を使いません。
6. スカウト活動中は飲酒をしません。
7. スカウトの前で喫煙はしません。また、受動喫煙にも注意します。
8. セーフ・フロム・ハームに関する問題が発生したら、速やかに対応をします。

確認日：\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

署名：\_\_\_\_\_

(役務：\_\_\_\_\_)